

ちょっと一言



改めて、わたし木岡の美術館建設に関する立場について触れます。
市立美術館は出来れば市内にあった方が良く考えております。同時に市立美術館は、社会教育施設として無料もしくは非常に低廉な利用料を設定して、誰でも美術・芸術に触れることのできる場とすべきと考えております。
しかし、建設コストがうなぎ上りで、市内の老朽公共施設の更新事業が必要な今、美術館建設は優先すべき事業ではないと考え、市立美術館の建設に反対しています。

美術館建設より優先すべき事業は・・・

- ①介護保険料・国民健康保険税の引き下げ・軽減策の拡充
- ②小・中学校の給食費と教材費の無償化、放課後児童クラブの無償化
- ③老朽化した学校校舎や公民館、スポーツ施設などの更新工事
- ④地域の生活道路や歩道などの維持・補修の促進
(白線の塗布、誰でも歩きやすい歩道の整備、ガードレールの設置、通学路の安全確保など)
- ⑤0歳児～2歳児の保育料を引き下げ、第二子以降の保育料無償化
- ⑥交通不便エリアの解消と買い物難民対策の促進など

！今なら中止できます！

無計画でずさんな計画のまま、さらなる建設コストアップのリスクを背負ってまで、市立美術館建設に突っ込むべきではありません。さらに新築で建てても耐用年数が切れる前に使用できなくなる可能性が非常に高い建築物に多額の税金をつぎ込むべきではありません。絶対に禍根を残します。少なくともいったん中止して、改めて市民の意見を聞いた上で再考すべきです。

12月市議会で明らかになった川口市政の動きについて

- ①子ども医療費無償化の助成対象年齢を通院・入院ともに18歳を迎える年度末までの拡大に向けて、2024年度当初予算に盛り込む方針。開始時期は2024年の秋ごろを予定。
- ②带状疱疹ワクチンの接種費用の助成制度の実施に向けて前向きに検討する。
- ③準要保護世帯を対象とした就学援助の新入学用品費について増額できるよう検討する。
- ④老朽化した学校給食センターの建設用地確保に目途がついたため、用地購入予算を確保した。
- ⑤みんななかまバス（コミュニティバス）の利便性向上に向けて、2024年度から全体のルート見直し案の策定に着手する。
- ⑥放課後児童クラブにおける長期休暇中の弁当提供の試験運用開始。2024年の春休みからの本格実施を目指す。

◆税金の使い道 徹底的に監視します！

◆子育てにお金のかからない 街にします！

◆高齢者が安心して生活できる街を実現します！

木岡たかし [profile]

1976年（昭和51年）3月26日生 専修大学法学部卒業 家族は、妻と娘と息子

■略歴■
参議院議員の公設秘書を7年間つとめる。建設会社勤務を経て、2007年（平成19年）川口市議会議員選挙で初当選。2023年再選。現在5期目。川口市議会「新風会」所属
【所属委員会】●総務常任委員会 ●議会運営委員会 ●都市基盤整備・危機管理対策特別委員会 【保有資格】 ◎社会保険労務士 ◎宅地建物取引士

公式ホームページ

木岡 たかし



川口市議会議員 47歳

◆発行責任者 木岡たかし [連絡先] 川口市東川口2-4-16
TEL:080-1244-3769 Mail:takashi@kioka.info

木岡 たかしの熱い想い

市政レポート Vol.46 [2024.1]



社会の不正に沈黙しない！ 川口市の闇に切り込む！！



—長いものに巻かれず、忸度しない、モノ言う議員が必要です！—

この間、ずっと取り組んでおります市立美術館建設について、2023年12月の川口市議会であらためて以下の3つの大問題について追及しましたので、ご報告します。

新築する美術館の耐用年数が残っているのに 使用できなくなる！！

～そんな美術館の新築に貴重な税金を突っ込むのか？～

今回の市立美術館は、川口駅西口地下公共駐車場の上に建設予定です。そのため建築後33年が経過している駐車場を基礎構造として、その上に美術館を建設するのですが、駐車場が先に50年の建て替えを実施すべき耐用年数に到達してしまいます。

※川口市の『公共施設等総合管理計画』では、公共施設・建物について「建築後20年で大規模改修、50年で建て替えを実施する」と規定している。

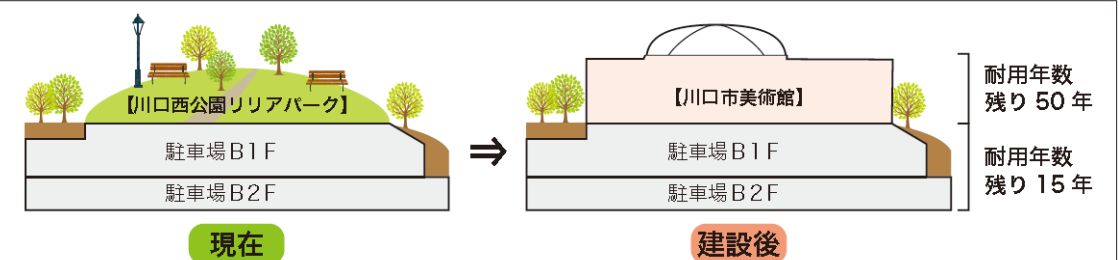
市議会で明らかになったこと・・・

市立美術館の基礎構造となる西口地下公共駐車場の耐用年数は、その上に新築される美術館よりも35年以上も早く耐用年数が切れるという致命的な問題があるということが明らかになりました。

こうなれば、上物である建築物としての美術館の耐用年数が、35年以上も残っているにもかかわらず、基礎構造である地下駐車場が耐用年数を迎えるため、その時点で、美術館は安全面で使用できなくなるか、地下駐車場と共に建て直す事になりかねない事が市議会でのわたし木岡の追及で明らかになりました。

耐用年数を使いきれない建築物に貴重な税金を投入すべきではありません。

◆リアの西側から見た「市美術館」建設前後の予想断面図



◆新美術館と地下駐車場の耐用年数比較

美術館	美術館 2025年末完成予定 耐用年数残り 50年
地下駐車場	2040年頃大規模改修か建て替え予定 耐用年数残り 15年

大問題 ② たった半年で15億円も増えた建設費！ すでに57億円に！ まるで大阪万博の建設費！

川口市が進める市立美術館計画の建設費用が、うなぎ上りで増えてしまっています。
2023年12月市議会では、美術館建設費用がさらに増えて約57億円にもなる補正予算が、賛成多数で可決されました。
市立美術館の建設費用は、当初20億円とされていました。それが2023年6月市議会において約42億円に膨れ上がり、さらに、たった半年後の12月市議会において、なんと約52億円にもなったのです。しかも建設コストのアップは、これだけでは収まらず、既存の川口駅西口地下公共駐車場の上に美術館を建設する変則的な建築の影響もあり、駐車場の改修工事も連動して実施することになったため、この改修費用に約4億8,000万円もの費用がプラスされました。合わせると約15億円の建設コストアップになってしまったのです。

- 市立美術館構想当初・・・20億円程度
- 2023年6月時点・・・42億円 ←
- 2023年12月時点・・・57億円 ←

！建設コストにかかわる危険性①

建設コストが今後も上がる危険性がある

昨今の世界情勢を見れば、いま高騰している建設資材が落ち着くことは考えにくいです。さらに、建設業界の働き方の見直しによって人件費が伸びることは間違いありません。そうなれば、現在の建設費約57億円がもっと増えてしまう危険性は高いと言えます。

！建設コストにかかわる危険性②

施工業者の選定が随意契約のため工事費が業者の言い値になってしまう危険性がある

市立美術館の建設事業では、施工業者が事実上の1社随意契約となっているため、建設費用について今後、事業者の言いなりになってしまう危険が多分にあることも改めて明らかになりました。



写真はイメージです



大問題 ③ 無計画！ ずさんな美術館建設計画の実態が次々と明らかに

わたし木岡の質問に対して、更に市側は以下のことを明らかにしました。

- ◆来場者数について「想定していません」
- ◆入館料金について「検討していません」
- ◆維持・管理費について
「同規模の公立美術館では、約2億5,000万円ですが、川口市においてはこれから積算します」
- ◆運営形態について「これから検討します」
- ◆展示物の購入について「未定です」

試算も想定もないまま、無計画な美術館（箱モノ）建設だけが進んでいます！！

普通、市立美術館の建設を計画するのであれば、どういった施設を作り、どういった運営をして、どのくらいの入場者を見込んで、どのくらいの料金体系（無料も含む）にして、維持・管理などの運営費にどれくらいの税金投入が必要になるのか、などの基本的事項を試算して計画を練るべきです。しかし、12月市議会で次々と明らかになったことは、上記のように基本的事項のほとんどについて、試算も想定もせずに無計画なまま、箱モノの建設だけが先行する“ずさんな美術館建設計画”だったのです。

！支離滅裂な市側答弁・・・ 試算はしていないが『独立採算』の方向性！？

前述のように基本的な運営費などについて試算や想定を何もしていない一方で、市側は、『同規模の公立美術館の運営費は約2億5,000万円』と答弁し、その上で、市立美術館の運営コストについて『独立採算』との方針を示したのです。

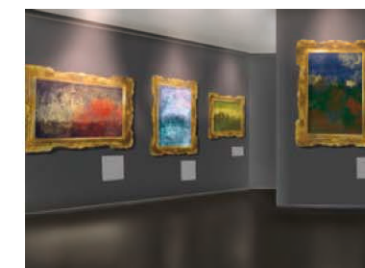
そもそも公立美術館では高額な入館料は取れませんし、取るべきではありません。

ちなみに埼玉県立近代美術館の入場料は無料です。もし年間の運営費2億5,000万円を有料入場者のチケット代で賄おうとすれば、どうなるでしょうか。簡単な計算をしてみます。

【前提条件】

- ①年間運営費2億5,000万円とする
- ②1ヵ月の開館日数を25日間とする
- ③1日の開館時間を午前10時～午後6時の8時間とする
- ④子ども、高齢者、障害者以外の有料入場料を500円とする

計算すると・・・



写真はイメージです

！常に1時間当たり200人以上、 毎日1660人ももの有料入場者が 押し寄せる美術館じゃないと成り立たない！

運営費2億5,000万円を入場料でまかない『独立採算』を実現するためには、開館日は毎日ずっと開館時から閉館時まで、1時間当たり200人以上の有料来場者がないと実現できません。連日の大盛況・大混雑です。

こうなれば良いですが、まず不可能な数字です。

今のまま市立美術館の建設につき進めば、まず建設において多額の借金をつくり、その上で完成後は維持・管理に毎年赤字を垂れ流す施設になることは間違いありません。

現に市の答弁で、市が調べた限りでは、公立美術館で黒字化できている美術館が全国に1つもないことを認めています。